

義務教育学校保護者説明会での質問と回答について

Q1 一体化することはよいと思うが問題発生時の対応方法は？

A. 現在、本郷小学校と中学校の校舎を連結することには様々な課題があり、どのような形で連結していけるのか調査しております。施設の整備に関しましては、子どもの安全に十分配慮し進めて参ります。また、義務教育学校は、校長は1人になりますが、副校長や教頭に加え、養護教諭や事務職員も複数配置され、教職員の人数が大幅に減少するわけではございません。仮に何らかの問題が発生したとしても、これまで同様な対応が可能と考えております。

Q2 教員不足もある中なので仕方ないことなのだと理解はしています。

A. 教員不足が、今回の義務教育学校化の理由ではございません。10/12の説明会でもご説明をさせていただきました「次代を担う人材育成プロジェクト」において「幼児期から一貫した学びの基礎力の育成と学力の向上」を1番目の施策としており、小中連携（一貫）教育によりよい学習環境へと改善することがあげられています。そのため、高田、本郷、新鶴の地域ごとに小中一貫教育を実現していきます。本郷地域では小中一貫教育の良さをさらに発展させ義務教育学校化を目指すものです。

Q3 説明会に都合が悪く参加できていないので、細かな部分がわかっていません。説明会の内容も簡単にプリントで配布していただくと良かったかなと思いました。

A. 細かい部分につきましては、まだ決まっていないものも多く、現在第三者を含めた教育施設等整備検討委員会にて協議をしております。例えば、義務教育学校の教育理念や、校章校歌などは児童生徒や保護者の皆様の意見を踏まえ専門家によって形づくられてまいります。なお、1月11日（水）にアンケート結果を踏まえた保護者の方向けの説明会を実施いたしました。

Q4 なぜ必要なかわからない。

A. 小中学校の別なく、義務教育を9年間の一貫したカリキュラムで運営することで、小学生の段階から、教科担任制を導入することにより高い専門性を持つ教員と学習し、学力や個性を伸ばします。これにより、現在の学校の課題の解決のみならず、これからの教育課題である子ども達の多様化への対応、ICTの活用、新学習指導要領の着実な実施等へ効果をあげるものと考えております。

Q5 もう決定事項ですか？他の用途で子どもや家庭の為に予算を使えませんか？義務教育化への狙いは何ですか。

A. 義務教育学校化につきましては、「次代を担う人材育成プロジェクト」の中の施策、取組でございまして、このプロジェクトを議会で説明し、関連する予算が議決されておりますので決定事項であります。また、このプロジェクトは小中学校だけではなく、こども園や子育て支援センターの整備などひとつひとつを新たに整備するのではなく、できる限りお金を使わず既存のものを有効活用しながら整備していこうとするものです。義務教育学校化の目的につきましては、前述のとおりです。

Q6 生徒全体の学力向上に繋げて頂けるのでしょうか。

A. 授業においては5年生から教科担任制を可能な限り一部取り入れて専門性の高い授業により学習効果を高めて参ります。教科書は変わりませんが、学習内容については9年生の卒業までを見通して学習内容の系統性を考慮し、学習順序の入れ替えや重点化など柔軟な計画のもと、よりメリハリあるものとなり、子どもたちの学習意欲を高めながら、学力向上に繋がるものと考えております。

Q7 メリットを伺いたいです。

A. 義務教育学校は現在の小中学校が抱える様々な課題を解決できる新しい仕組みとして生まれました。具体的には学力の向上や個性の伸長、異学年交流による社会性の育成、中1ギャップの不安解消など全教職員でのサポート体制により、今までより細やかな教育を行うことができるようになります。

Q8 小・中連携体制をしっかりと取れるような学校づくりを期待している。

A. 現在の小学校、中学校が一体となった学校になりますので、義務教育9年間を通した教育目標の下、小中の区別なく一つの教職員組織で、子どもたちが充実した教育活動を行える環境づくりを進めます。

Q9 表面に現れてないだけで、子ども同士の目に見えないイジメは確実にあります。

- ①小学校のうちから中学生の授業内容が組み込まれるのか。
- ②小学生も教科ごとの先生となるのか。
- ③現中学生一年生は義務教育化になれば何年生となるのか。（例：小学部1年、中学部1年）
- ④校舎はどうなるのか。校舎をつなげるのか。
- ⑤学力向上を目指して大学などとの連携も視野にいれているのか。

A. 日頃より学校教育へ関心をもってくださいありがとうございます。いじめはいつでもどこにもあるものと認識しておりますので早期発見、早期解決に今後も努めて参ります。義務教育学校は1年生で入学し9年生で卒業することになります。前期課程と後期課程という区分けは残ります。前期課程（小学校段階）と後期課程（中学校段階）であるいは学年間で授業内容を入れ替えて行うことは可能となりますので、下学年で発展的に取り扱うことも考えられます。5、6年生を中心に前期課程段階から教科担任制をできるだけ取り入れ、7年生からはすべて教科の先生による授業になります。教職を目指す学生による学習指導など大学との連携は今後検討してまいります。校舎については義務教育学校の校舎が一体となっていない決まりはありませんが、将来校舎を連結していく考えです。

Q10 校歌や校章などは児童や保護者、地域からの募集でのトラブルを避けるために外部に委託してほしい。

A. 校歌や校章などは、新しい学校として大きな意味を持つものとなります。またその制作過程に子どもたちが関わることは意義のあることで学校の主体が子どもであることを大切にしたいと思っております。今回のアンケート回答結果や第三者を含めた教育施設等整備検討委員会において出された見解を基により良いものになるように進めてまいります。

Q11 それをする事で今までの教育と何が変わるのか。それをする事でのメリットは？

A. 義務教学校は現在の小・中学校が抱える様々な課題を解決できる新しい仕組みとして平成28年に生まれました。1年生から9年生が共に学ぶことで、学力の向上や個性の伸長、異学年交流による社会性の育成、中1ギャップの不安解消など全教職員でのサポート体制により、今までよりきめ細やかに目が届き、充実した教育環境を実現しやすくなります。

Q12 義務教育学校化にした方が、今より細やかな教育や指導ができるようになり、良いと思うが、幼少期からずっと同じ環境で過ごすことで、行き場を失う子・窮屈に感じる子や、環境が変化した時（高校進学など）に対応できるのか、が不安・心配です。

A. 校内の異学年の交流が活性化されることが期待されます。またコミュニティスクールのよさを生かし学習内容と地域をつなぐ活動を多くして地域の方との交流を増やし、子どもたちの地域貢献やICT機器活用による遠隔地の子どもたちとの交流など、多様な交流の機会をつくりながら社会性も高められるよう努めてまいります。また多くの教職員により、一人一人に寄り添ったきめ細やかな指導ができるようになります。

Q13 せっかくの小学校中学校が一緒の義務教育学校になるなら、部活動も充実させるなど色々な経験ができるようになることを期待しています。

A. 義務教育学校になった場合、後期課程（中学校段階）の部活動に前期課程（小学校段階）高学年の児童が参加して活動することも可能になると考えております。子どもたちの自主的な活動を促し、自信を育てるためには効果があると考えています。部活動の地域移行も見据えながら、義務教育学校下でのこのような活動環境が実現するよう検討してまいります。

Q14 先生方の連携の仕方はどのようにしますか？こども園との連携のしかたは？どのくらいを目処に進めるのか？を、見える化してもらいたい。

A. 義務教育学校になった場合、可能な限り先生方が全員集まれるようなスペースや機会を確保し、情報共有や連携が図られるよう、ハード面での整備を進めてまいります。合わせて、本郷こども園との交流についてですが、まず本郷小学校校庭に移設可能かどうか技術的な検証を行っているところです。仮に現在の場所から移らなくても、距離が近いため十分な幼小中連携が可能だと考えております。連携の見える化については、こども園の場所の決定等も踏まえ、随時情報提供させていただきます。

Q15 こういったアンケートの、答えに対しても、期日を決めてしっかり発表し、こたえてもらえると他の方がどんなふう考えているのかがわかり、参考になります！よろしく願います。

A. 皆様からいただいた貴重なご質問やご意見につきましては、教育委員会事務局において検討した上で随時回答をご報告してまいります。

Q16 こどもの人数も減ってきており、空き教室もあるので、新しいこども園を建設するのはどうかと思います。特別教室（家庭科室や理科室など）を小中学校で共有し、もう少しコンパクトにできないのでしょうか？こども園の新設に費用をかけず、今ある建物で何とかならないのでしょうか？子どもの数が年々減っていくことをもう少し考慮すべきだと思います。税金の無駄遣いだけは避けてほしいです。

A. 本郷こども園の移設について、現在の本郷小学校校庭に移設する方法が幼小中の連携を考えた上でベストな位置であると考えておりますが、技術的に実現が可能であるか現在検証を進めているところです。現在の園舎（幼児部棟）は老朽化が進んでいるため、近い将来改築が必要になります。園舎の建設においては最小の費用で最大の効果が見込めるよう検討してまいります。

Q17 なぜ、急に義務教育学校化になったのかがわかりません。

A. 本郷が現在推進している「次代を担う人材育成プロジェクト」では、町内小中学校の教育上の連携を進め、学力の向上のほか、非認知能力の育成を強化していくため、こども園との連携も含めた幼児教育と連携した小中一貫教育を進めていく方向性を打ち出しております。その中で、校舎が隣接している本郷小学校・本郷中学校においては、連携をより強めていくため、9年間の一貫教育が実現できる義務教育学校化を進めることになりました。これによって、小学校と中学校の隔たりがなくなり、1年生から9年生までの一貫した教育が可能になります。その知見を高田地域や新鶴地域で行われる小中一貫教育にも取り入れ、町全体として義務教育の質を向上させていくことを目指しております。

Q18 今までの小学校6年間、中学校3年間でカリキュラムを分けていたことを、小中一貫義務教育学校になり9年間で行うことによる相乗効果が何なのかかわからない。例えば、小学校から中学校に移るタイミングでの転勤等の区切りが曖昧になることで転勤先での学習の差分が懸念されたり、同学年、同年齢での習得率の差分について、どう考えているのかわからない。中学受験を考えている場合も、それまでの必要なカリキュラムが達成できているのかがどういう指標で分かるのかわからない。また、教科書は今まで通りとのことですが、であれば、小中一貫にするのは、教育側の人員削減などの理由もあるのであれば、そこも説明されたほうが、まだ、理解しやすい。

A. 義務教育学校の学習内容については、基本的には国が定める小学校や中学校の学習指導要領に基づいて行われますが、独自教科の設定や、前期課程（小学校段階）と後期課程（中学校段階）であるいは学年間での学習内容の入れ替えが可能となり、関連性の高い学習内容を学年を超えて一括して扱うなど、系統性を考慮した指導で、学習効果を高めることができます。転校の際には、この措置により特別に学んだ内容を転出先にも伝え、不利益とならないよう配慮することとしています。義務教育学校になった場合の効果は、教科ごとの専門教諭による小学校段階からのより深い指導や、芸術分野での一貫した指導が可能になることです。当然、小中の学校が1つになるため、一見すると人員削減等による経費節減が主眼ではないかと見られがちですが、義務教育学校運営に必要な教職員は、逆に優遇して配置される仕組みとなっており、県教育委員会にも小中双方の教員免許の所持者を多く配置するなど要望しているところです。

Q19 アンケート下部に、制服や運動着、カバンについて、小学校の段階、中学校の段階と書かれてありましたが、そもそも義務教育学校になるのに、このアンケートの趣旨がわかりませんでした。ロードマップどおりに進んでいるのかもわかりませんが義務教育学校設立という言葉が独り歩きし、構想が具体的でなく、利用する生徒、保護者に対して、大変不親切で不安しかありません。

A. 義務教育学校では9学年を、4・3・2制や5・4制で区切るなど区切りは自由ですが、学習内容は国が定める小・中学校の学習指導要領に基づくため、小学校の段階、中学校の段階と表現したものです。また、ロードマップではR6年度開校予定としており、一体型の校舎整備については、建築許可等の問題で遅延が生じているものの、R6年度開校に向けて現在、準備しているところです。さらに、義務教育学校の説明については、アンケート前までに2回実施しておりますが、義務教育学校化にすることについて、不安を感じているとの多くの意見があることから、より一層、理解を深めていただけるよう努めてまいります。

Q20 校舎はどうなるのか。

A. 小中学校とも既存の校舎を活用しますが、一部、小中連結に向けた改修工事を予定しております。

Q21 令和6年度開校という予定が、不安を感じます。ロードマップより具体的な道筋が見えると、分かりやすいのかなと思います。

A. 本郷義務教育学校開校までの推進スケジュールは別紙のとおりです。

Q22 過去に囚われない新しい感覚で、小中一貫義務教育化を創り上げて行くことは可能ですか？

A. 義務教育学校は1年生で入学し、9年生で卒業します。子供たちの人間関係の発達について子ども一人一人に寄り添い、それぞれの学年や3つのまとまり（1・2・3・4年生、5・6・7年生、8・9年生）等様々な視点に立って発達や状況に応じたきめ細やかな指導を進めてまいります。また、独自教科の設定や小学校段階からの教科担任制の導入などにより、本郷地域ならではの義務教育学校を目指します。

Q23 大学行くには地方の環境では無理なので、行きたい人は進学塾のある地域に引っ越せば良い。美里は壊滅的に交通の利便性が悪いので、親の送迎が無ければ塾も無理。若松市内の進学高校に入って優秀な成績であっても、国公立大学には一握りの、しかも塾で入試対策をバッチリ仕込まれた恵まれた子しか合格しません。なので、地方の子に学力はあまり求めていません。

A. 本郷小・中学校の義務教育学校を含めた今回のプロジェクトでは、地域の次代を担う人材の育成を目指しています。大学進学をかなえる高い学力を身に付けさせることも大事ですが、地域を支える人材を育成するには、非認知能力など生きるために必要な人間力を地域の良さを感じさせながら高めていくことが重要です。義務教育学校のメリットを生かしながら、本郷地域ならではの教育環境を整えていきたいと考えております。

Q24 小学校でも職員間の連携が上手くいってない時もあるので、義務教育学校になったら、より一層、連携が深まってくれるようにしてほしい。

A. 現在の学校より多くの教員が一つの組織として子どもたち一人一人に関わり指導いたしますので、より一層、連携が図れるよう努めてまいります。

Q25 なぜ、今、義務教育学校にするのか。

A. 義務教育学校化については、町の第3次総合計画（後期基本計画）が令和3年度に示されて以降、次代を担う人材育成プロジェクトの中で進められてきたところです。

義務教育学校化の最も大きな理由としては、急激に変化し続ける時代に対して、学校教育が柔軟に対応できる仕組みを作るためです。

別紙パンフレットの内容も含め、具体的に3点あげるとすれば、

1つ目は、近年の教育内容や学習活動の量的・質的充実に対応する必要性があるためです。

（小学校高学年での外国語導入や理科教育の一層の充実など）

2つ目は、児童生徒の発達の早期化への対応の必要性があるためです。

（小学校中、高学年から発達上の段差、興味関心や個性への対応重視、専門性の高い教科の必要性など）

3つ目は、いわゆる「中1ギャップ」への対応です。

（授業形態、指導方法、評価方法の違い。生徒指導の手法の違い、部活動の有無など）

義務教育学校化によって、小中の垣根を取り払い、課題に対して柔軟にかつ丁寧に対応できる、こどもファーストの教育環境が実現しやすくなります。

Q26 環境が整っておらず、そんな中進めていくこと自体がナンセンス。環境があつてからの話であると思う。河東学園と違い、義務教育学校ありきとして作られていないため、環境が揃わなすぎる。メリットよりデメリットが多すぎて不安しかない。進捗状況やこれからどこまで本当に実現可能なのか、義務教育学校にする納得できる大きなメリットをもう一度しっかり説明し、大半の町民が理解してこそその学校設立であると思う。あまりに理論だけの設立に大きな疑問を感じる。進捗状況等、はっきりと示してほしい。

A. ご指摘の通り、義務教育学校ありきで現在の校舎が建設されているわけではありません。しかしながら、本郷小・中においては、道路1本を隔てて校舎敷地が隣接しており、義務教育学校化を考えるうえでは、大変恵まれた環境にあります。従来通り、小中の垣根を感じながら、それを補うために様々な努力をしつつ、学校教育改善の道を歩むこともひとつですが、次代を担う人材育成プロジェクトにも示したように、この立地を最大限生かし、よりよい学習環境づくりと、子どもファーストの仕組みづくりを強力に推進したいと考えております。そして、義務教育学校でしかできない、9年間教育の先進的実践を進めてまいります。

メリット、デメリットについては別紙資料に示しましたが、特にメリットは、25での回答にあるように、義務教育学校化によって、小中の垣根がなくなり、課題に対して柔軟にかつ丁寧に対応できる、こどもファーストの仕組みができることです。そして、その仕組みでメリットは最大限にし、デメリットは最小限に抑え、成果を発揮できる学校を目指します。

進捗状況等については、町ホームページや学校だより等をとおして適時お知らせしてまいります。

Q27 義務教育学校化に伴う施設の縮小はあつて良いと思うが、子どもの教育に不便な施設にならないか？

A. 義務教育学校化によって得られるメリットを最大限生かせるよう、教育活動に合わせて施設の有効活用を検討してまいります。

Q28 何年後になりますか。

A. 義務教育学校については、令和6年4月の開校を目指しております。

Q29 説明会に参加して、義務教育学校化に嫌悪感が出ました。

①数年後に本郷体育館がなくなることへのこじつけのようでした。小学校体育館と校庭を余剰施設と言ったその姿勢です。開校10年、この保護者説明会まで何年も検討したことと思います。何年目で余剰と意識したのでしょうか。違和感を感じます。

②大阪教育大附属池田小学校の事件以来、学校のセキュリティは厳しくなりました。それと逆行する、体育館解放です。子どもの動線と不審者の動線が交わります。でも職員室の窓は高く、見えません

③昇降口は階段で子どもは駆け下りてきます。しかし、体育館使用者は道具搬入を希望するものが多いと思いますが、昇降口前を車で通らないと搬入できません。子どもの動線を考えると、目の前の体育館や校庭が使えず、道路を渡って中学校体育館へ行くことの違和感

④低学年には相当な負担です。朝のマラソン、冬の縄跳び、昼休み、身体を動かす子どもが減ると思います。運動能力の低下、視力低下にも繋がると思います。

⑤ソフト面は開校後も変えることが比較的容易ですが、ハード面はなかなか変えることができません。道路に渡り廊下、地価を掘るなどを考える前に、まずは子どもの動線、子どもの目線に立って議論してください。目の前の体育館をどうして私達は使えず、外履きに履き替えて移動しなきゃならないの？となるでしょう。

⑥保護者に説明する段階ということは、ほとんど決まって、こんな意見を書いても「承りました」程度のことかと想像されます。それは、1名の職員の姿勢に出ていました。腕を組んでのけぞって、保護者をにらみつけるような態度でずっと見ていました。メモなどは一切取っていませんでした。これには怒りすら覚えました。

⑦保護者が声をあげれば体育館と校庭の見直しはされるのでしょうか、不審者に対応できる学校の構造ではないので、断固反対します。

⑧地域学校協働というものの、結局はボランティア頼み、経済情勢からも金銭的にも時間的にもゆとりがある人が少なくなり、こういうボランティア頼みのものはいずれもたち行かなくなります。放課後子ども教室のスタッフを年中募集しているのも、主婦の一番忙しい時間に人を集めるなら、それ相応の待遇をしないからだと思います。活動を活性化させます、の前に待遇面を整えることが大事だと思います。

⑨とにかく、本郷小体育館は、道が狭いうえに、子どもがいる時間に多数の部外者が入ってくることになるので、解放には断固反対です。

⑩説明会出席者が少ないのに、これで説明責任を果たしたとは言えません。説明会に出なかった保護者は体育館が転用されることすら知らず、話をしたら、なぜこんな大事なことを大きな見出しにして話さないんだ…と怒っておりました。

⑪義務教育学校の説明とは別に、体育館の社会体育施設転用で説明会を開くべきです。

A. ①～⑪

①小学校体育館と校庭につきましては、本郷地域を一体的にとらえ、地域の体育館やこども園の建設地としての活用を考えております。余剰施設という表現は、義務教育学校が、現在の本郷中学校の体育館と校庭の活用を構想した段階でのものです。しかしながら、「あまった不要な施設」という意味合いではなく、あくまでも有効活用することが大前提です。他地域の小中学校の体育館も含め、空いているときには有効活用できる環境を整備していく考えです。今後、誤解のないよう、より一層の丁寧な説明が必要だと考えております。

②学校は最も安全で安心できる場所であればなりません、それと同時に、地域に開かれた豊かな学びの場であればなりません。防犯カメラ等や児童生徒の導線、時間帯や移動方法等で可能な限り死角がないよう安全確保に努めることも大切ですが、地域住民が様々な形で学校の中に入り、より多くの目で子供の学びを見守ることが安全安心な学校づくりには大切です。

③現在もそうですが、校地内への自動車の乗り入れは、必要最低限度にとどめるとともに、最徐行での通行としております。また、児童生徒には急な飛び出しなど無いように、周囲の安全確認や落ち着いた生活について指導を継続して参ります。

④低学年についても、本郷の子どもたちには、心身ともに強くたくましく育ててほしいと考えております。特別に配慮が必要な児童生徒を除き、安全に移動しいっぱい遊んでほしいと思います。

⑤体育館は学校の利用を優先しながらも、空いているときには利用できるよう予約システムを導入し、利活用を図ってまいります。

⑥保護者の皆様や地域の皆様の貴重なご意見をいただきながら可能な限りよりよい形で義務教育学校化を進めてまいります。

⑦残念ながら現在の施設設備でも、もし、悪意を持った不審者がいれば、その侵入を完全に防ぐことはできません。不審者対応については、防犯カメラなどのハード面での対策もさることながら、多くの地域住民の目で見守ることや、教職員と児童生徒の防犯意識を高めることが最も大切だと考えます。子どもたちが安心して学べるよう、最善を尽くしてまいりますのでご理解いただきたく存じます。

⑧ご指摘の通り、地域学校協働活動は地域の方々の善意に支えられており、安定した財源をもとにした雇用形態ではありませんが、今後も「地域の子どものために」とご協力いただける方々の力をお借りしながら、より一層活動を活性化させていきたいと考えております。

放課後子ども教室のスタッフの処遇に関しては、十分満足できるものではないかもしれませんが、何よりも子どもが好きて、子どもを大切にサポートできる人材を募集しております。今後とも国や県に要望しながら改善が図られるよう努めてまいります。

⑨ ③④の回答のとおりです。

⑩今後も、保護者説明会や、文書、HPへの掲載等で説明の機会をつくり、広くご理解いただけるよう努力してまいります。

⑪体育館の社会体育施設転用については、利用団体に説明する機会はありませんでしたが、公共施設オンライン予約システムの導入とともに今後とも地域の方々への丁寧な説明が必要だと考えております。

Q30 義務教育学校となった場合、小学校で学級崩壊してしまった学年が、中学校がないためリセットされることなく、学級崩壊したまま卒業になってしまうのではないかと心配です。そして義務教育学校となった場合、今までは小学校、中学校と二人いた校長先生が一人になってしまう反面、児童生徒数は増えるため問題が起きた場合にきめ細やかな対応ができるのか不安です。

また先生方への負担がかからないような制度にしてほしいです。困っている子を助けられ、子どもたちが安心して学べるやさしい学校になってほしいです。

A. 新しい学校制度に対する様々な心配や不安があると思います。義務教育学校では教職員が複数でより細やかな指導にあたることのできるため、学級崩壊が出にくいものと考えておりますが、ご心配な状況を生まないように先進的な学校の事例を参考に問題の解決を図って参ります。また校長先生が一人になったとしても、従来の小・中学校より教職員が年代や実態に応じてきめ細かな指導ができる体制となりますので生徒指導を充実させることができます。9年間の教育課程では学校の教育活動がより精選されて参りますので教職員にも子どもたちにも負担が少なく、安心して学び充実した学校生活を送られるように努めて参ります。

Q31 お迎えの際の駐車場の整備をして欲しい。今後、こども園も小学校敷地内に来るならなおさら。何かあると役場駐車場を使うことになっているが、遠い為かなり不便。朝も学校まで送る際、道路も狭いし、中学生が走っているしでかなり危ない。道、駐車場の整備も検討してください。

A. 子どもたちの安全安心を最優先に考えて参ります。こども園を移転する場合には、これまでとは別に新たな道路や駐車場を設ける必要があると考えております。

Q32 もう少し、地域の声や保護者の声を聞いてから、慎重にすすめてほしかったが、もう絶対やると決定ですか？

A. 人材育成プロジェクトにつきましては、これまでも様々な場において説明をさせていただきましたが、十分に周知できなかった点について反省しております。今後も丁寧な説明を重ねて参ります。会津美里町のすべての小中学校において、形態は異なりますが小中一貫教育を取り入れ、教育効果をあげていきたいと思っておりますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

Q33 この話が実施されると決まる前に、話し合い等が欲しかったです。具体的にどうするのか、どうなるのか、ロールモデルもないままに変わるとの説明等だけでは非常に不安です。もっと具体的に方向性を示していただきたいです。今後の進展に関して不安感や、疑心感を伴うかと思うと気が重いです。校庭が一つになる、十分である。何が？どう、十分なのでしょう。教師の方々に負担があるかもしれないも増員の予定はないというのも不安でした。少なくとも私の周りの親御さんと同じような気持ちの方がいらっしゃいます。大事な決定です。もっと歩み寄りたいため、もっと歩み寄りをしてほしいです。変わることに、不安になりたくないです。

A. 新しい義務教育学校に対する不安や疑問は数多くあり心配されていると思います。

現在、小学校や中学校の教員が学校の教育内容の柱となる教育課程を始め様々な課題に対する解決策や計画を作成中です。今ある本郷小学校、本郷中学校のよさを残しつつ、さらに教育内容を充実させるように教育内容を検討しています。今後折に触れ学校より教育内容を説明していくようになりますのでご理解くださるようお願いいたします。

また、校庭などの施設に関して様々な課題があることを説明いたしました。今後も解決に向けて教育委員会より丁寧に説明を重ねていきたいと思っておりますので、ご理解をお願いいたします。

Q34 説明会では、自由意見を書けるスペースがあると聞いていましたが実際は無かったので、ここに記入します。学校教育への町民参加を促進とありますが、その場合のセキュリティ対策はどのように考えていますか。学校は子どもの安全が優先です。小中の校舎が連結できなければ、学校の間を老人が車で行き来する機会も増えるので、尚更不安全行為です。断固反対。今でも小学校の脇に駐車する老人を排除出来ないのに、乗り入れが禁止と言っても言う事聞かれない。小学校の体育館を社会体育館に変更と言っていたが、学校関係者以外に自由に出入りできるなんて危険すぎます。特に小さい子は、老人の言う事でも従ってしまうので、連れ去り等の不安があります。このアンケートは義務教育学校ありきのアンケートですが、その前の段階の賛成か反対かのアンケートはあったのでしょうか？メリットはありきたりのことしか説明がなく、義務教育学校になったからと納得できるものではなかった。またデメリットについてはしっかり検討されていない曖昧な説明で、保護者は不安しかない。賛成、反対の数値を示した上でやってほしい。また、イマイチわからない保護者が大半の中、行政だけで一方的に進めているように感じる。このやり方では、行政への不信感となり、地域により添っていないと感じるが、子どもたちにとって本当に良い環境、学びの環境としてどうなのでしょう。

A. 子どもの安全は何より大事だととらえております。現在の学校の安全教育や指導体制を見直して徹底を図っていくなど校内の安全対策に加えて、関係機関や外部団体からのご協力をいただきながらさらに安全確保に努めてまいります。全国的にも地域学校協働活動などで、住民が学校教育に携わったり、学校施設の利用者など多くの大人が子どもを見守ることで安全を確保する方法が主流となりつつあります。これまで以上に地域の皆様が学校教育に関わる環境を実現していきたいと考えております。

また、今回のアンケートでは、「義務教育学校にとっても期待する」、「やや期待する」と回答をお寄せくださった保護者の方が64%いらっしゃいました。義務教育学校が子どもにとってよりよく充実した学びの場となるよう、学校と検討を進めるとともに、これからは保護者の皆様に丁寧に説明してまいりたいと思っておりますのでご理解をいただき、ご協力をお願いいたします。